

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	杉戸町			代表者名	窪田裕之
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	市街地整備推進室	連絡先電話番号	0480-33-1111
担当者役職	主査	担当者氏名	吉岡 崇	連絡先E-mail	
住所	345-8502 埼玉県杉戸町清地2-9-29				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	
		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（複数団体）	事業名	東武動物公園駅東口通り線周辺まちづくり支援事業
概要	地域情報化を基礎とした行政広報・シティプロモーションと民間の協働に向けた職員向け研修。研修を通して地域情報化等を利用したシティプロモーション、エリアマネジメント等のまちづくり計画又はまちづくり戦略の策定に反映。		
支援を求める分野	計画策定支援 EBPM（エビデンスに基づく政策立案）		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	531	令和7年10月29日	支援・助言&講演	実地
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年10月24日	講演(実地)	9時30分	16時30分	30
			活動時間（分）	390	
2-2. 派遣場所	会場名	ココティすぎと	最寄駅	東武動物公園駅	
	所在地	埼玉県北葛飾郡杉戸町杉戸3丁目9-10	最寄駅からの交通手段	徒歩5分	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	河井 孝仁
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	職員間のモチベーション格差や不公平感を解消する具体的な「褒める仕掛け」を、目立たない業務の職員も含め全庁的にどう展開していくことの重要性を助言。アドバイザーの講演を通してプロジェクトが担当者個人に依存するリスク（属人化）があり、知識やノウハウを組織的に継承する仕組みが求められる。杉戸町は先進的なことを実施しているが、点の集合から面のブランドへの統合が今後の鍵。指標で可視化し誰もが主役のまちづくりを証明するまちへの推進が必要である旨を助言いただき町職員自身が杉戸を推奨したい人になることが大事であることを講演いただけた。
アドバイザーへの要望事項	特になし

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	20人		
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	17		3	

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	1、各事業が点在し、全体戦略（未来ビジョン）との整合性が弱い。 2、取組が、一部の関係者中心で一般住民への波及が限定的。 3、エリアプラットフォームの役割・体制・名称が不明確で、町内外に伝わりにくい。 4、シティプロモーションやmGAP等の指標が「測ること」自体を目的化しており、まちづくり本来の目的と乖離しつつある。 5、行政内部でも熱量格差・属人化が発生し、庁内一体の推進体制になっていない。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	1、「誰もが主役になれるまちづくり」という理念を、個別事業ではなく町全体の共通目的として明文化・共有する。 2、“圧倒的ホームタウン”を町全体のブランド概念として体系化。 3、エリアプラットフォームを「杉戸町のシティプロモーションのカウンターパート」と明確化し、行政と地域をつなぐ中間支援組織に育成。 4、事業成果を定量化（mGAP・NPS・感謝指標等）し、PDCAを自走できる仕組みに転換。 5、行政職員の意欲を高める庁内プロモーション文化（褒める仕掛け）を醸成。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	1、現行事業の構造分析と課題抽出 2、ブランド戦略・ネーミング支援 3、成果指標 (mGAP・感謝指標) 活用方法の指導 4、庁内・教育連携に関する助言
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	1、未来ビジョン動画の位置づけを「将来ビジョンの誘発ツール」として再定義し、行政内部で理解統一。 2、のっとりたい人層への理解が進み、行政非関与層との関係形成の意義が明確化。 3、エリアプラットフォームを「まちづくり相談所 (物理的・継続的場)」として具体化し始めた。 4、mGAPを「厚みと感謝を測るツール」として再認識。 5、「圧倒的ホームタウン」を共通ブランドワードとして、広報誌・事業内での使用方針を整理。 6、教育分野 (小学校) との連携を推進し、地域学習や名称づくり参画の企画構想が進行中。
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。 ⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	1、未来ビジョン本体 (全体構想) 未策定のみで、動画や事業が先行。 2、エリアプラットフォームの組織形態・財源・法的位置づけが未確立。 3、mGAPを運用できる人材体制・データ連携仕組みが未整備。 4、行政内の温度差・業務分担の不均衡は残存。 5、圧倒的ホームタウンの住民側の理解・共感性はまだ低い (内部概念止まり)。
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 本講演においては、特定の成果を評価・点数化することを目的としたものではなく、行政職員の意識共有や知見の底上げを目的として実施したものであるため。
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい ②次年度に予算化を図り推進する 1、アーバンデザイン (未来ビジョン) の明文化 2、エリアプラットフォームの正式組成 3、mGAP/感謝指標の本格運用 4、ブランド浸透施策 5、庁内横断推進体制の構築
4-4. 事業の最終的な目指す姿	1、行政・民間・地域・学校・子どもが対等にまちづくりに関われる社会基盤を形成。 2、ココティすぎとやエリプラを核に、“相談できるまち・褒め合えるまち”文化を醸成。 3、まちのブランドが「政策・空間・人の行動」に一貫して反映され、

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可 掲載可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真 (JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。

